



尊不動土黒

# 寺動無

神に守られ仏に支えられ寒行邁進、六郷満山千三百年。



## 六郷満山

国東半島には、1300年の歴史を誇る宗教文化圏があります。それが六郷満山と呼ばれているものです。六郷とは、半島を構成する古い地名で、安岐・武蔵・国前・伊美・田染・来縄の六つの郷のこと。満山とは山岳信仰で使われる言葉であり、山すべてを全ての仏とし、山すべてが仏の浄域であり、その浄域にあまねく点在する寺院の集合した状態を満山と称しているのです。言うなれば、国東半島そのものが仏であり、浄域のすべてであり、寺院であるとも言えます。

## 六郷満山と宇佐八幡宮

国東半島の六郷満山は奈良時代から平安時代にかけて成立しました。その成立に重要な位置を占めているのが全国の四万社にもものぼる八幡系神社の総本山でもある宇佐八幡宮です。宇佐八幡宮は、最初に神仏習合を実践した神社としても知られています。八幡の神を「八幡大菩薩」と称しているのもその表れです。

国東半島は、両子山を中心に放射状に幾つもの谷や山稜が伸び、奇岩が連なる秀峰の仙境が無数に点在しています。古来よりここには原始的な山岳信仰が生まれたとされており、原初の修験道が行われていました。



**峰入り行**  
10年に1度行われる。国東半島に点在する180か所に及ぶ霊場を巡る荒行。現在も行われており、写真は2010年のもの。原初の修験道を今に伝える

ここに、天台密教や浄土思想が結びつき、宇佐八幡の神仏習合が融け込み、神と仏が渾然一体となった霊場になり、この霊場を組織的に支える一連の寺社が成立していったことが、六郷満山成立の過程とされています。

また、半島の天地に修験僧を統率し満山を組織するには宇佐八幡宮の強力な背景とともに、法華経二十八品にならい二十八寺を開基しつつ、多くの奇跡を現したとされる「仁聞上人」という神話思考的な象徴が働いて、六郷の大衆を魅了し畏敬されていたと考えられています。



伝弥勒仏坐像(県重要文化財)



節分会の豆撒き



節分会の護摩

宝篋印塔などもたくさん保存されています。

## 厳冬時の峰入り寒行

向う谷にある天念寺参拝を含む行を毎年1月13日から2月2日までの21日間連続して行います。朝4時起床、お経を唱え、鐘をつき、まだ日も昇らぬうちに入山し峰々を渡り歩く荒行です。2月3日の節分会(天台宗では星祭り)のためのお清めの修行です。節分会は、お盆行事である施餓鬼会とともに本寺の大切な二大行事になっています。



十六羅漢像



仏前結婚式も行えます



寒行修行中の本寺青山住職



御本尊「不動明王」 忿怒身でありながら怒りを激しく現さず穏やかな慈悲相が特長。古い形を保っている(県重要文化財)。黒土不動尊としても有名

不動明王に従う二童子  
上が制吐迦童子(せいたかどうじ)  
下が矜羯羅童子(こんがらどうじ)



薬師如来坐像と十二神将(県重要文化財)



大日如来坐像(県重要文化財)極めて簡素作り



伝弥勒仏坐像(県重要文化財)



節分会の豆撒き



節分会の護摩

## 本・中・末という寺社組織

六郷満山の寺院は、学問修行の場でした。それは立地と役割により3つに大別されています。まず、宇佐八幡宮に近い八ヶ寺を本山本寺とし、学僧養成と統率的な職務を担当していました。次に、半島中央部に位置する十ヶ寺を中山本寺とし、山岳修練の行を実践する僧が集い、各種記録を行う職務を持つ寺。そして半島周辺部にある十の寺を末山本寺とし、主に一般の人々と接しながら修業することを旨としていました。

## 無動寺は中山本寺の名刹

本寺は、六郷満山寺社で十ヶ寺あった中山本寺の一つであり、最盛時には伽藍の規模が50~60あったと云われ、常に100名あまりの僧が修行に励んだと言われています。支配下には十二坊を持っていました。開基は奈良時代初期の養老年間(718年)で、伝説の「仁聞上人」によって開かれたと伝えられています。

本堂には県下最多の平安期の木像仏(県重要文化財16体)等が奉安され、今もお受け継がれている祈禱道場として、また千体地藏尊の寺としても知られています。

もとの本堂は現在の位置よりも下流の下黒土、通称小岩屋にありました。それで山号を小岩屋山と号しています。

## 御本尊は不動明王

本堂には、御本尊である不動明王を配し、その右側に大日如来、薬師如来。左側に伝弥勒菩薩が並んでいます。不動明王とは大日如来の化身とされ、忿怒身でありながら怒りを激しく現さず穏やかな慈悲相になっています。この慈悲相は平安時代までとされ、古い形を保っていることから藤原時代の秀作と評されています。

薬師如来は、木像としては六郷満山中最も大きな尊像です。元々は御本尊、体内仏も残されており、薬師の眷族十二神将も表情豊かな藤原時代の秀作です。日光・月光菩薩を従えた薬師三尊であり、眷族揃っているのは本寺だけです。

大日如来は最高位の仏とされており、太陽の化身であり、本来ならば煌びやかな宝飾を身につけていますが、この大日尊は飾りの少ない簡素な造りになっています。衣文の刻み方から平安末の作とみられています。また、伝弥勒菩薩は同じく平安末頃の作で、薬師如来とよく似た彫りですが、肉髻(にくけい:頭の頂)が低く、螺髪(らほつ:丸まった髪)がないのが特徴です。

弥勒仏は未来仏とも呼ばれ、現在修行中で56億7千万年後にこの世を救うために如来となって下生される仏です。

また本堂裏手には、十六羅漢像を始め仏菩薩の石像や板碑、

宝篋印塔などもたくさん保存されています。

## 厳冬時の峰入り寒行

向う谷にある天念寺参拝を含む行を毎年1月13日から2月2日までの21日間連続して行います。朝4時起床、お経を唱え、鐘をつき、まだ日も昇らぬうちに入山し峰々を渡り歩く荒行です。2月3日の節分会(天台宗では星祭り)のためのお清めの修行です。節分会は、お盆行事である施餓鬼会とともに本寺の大切な二大行事になっています。



十六羅漢像



仏前結婚式も行えます



寒行修行中の本寺青山住職



# 黒土不動尊 無動寺

宇佐神宮六郷満山霊場第13番札所

九州三十六不動霊場 第六番札所 国東六郷満山霊場めぐり 第十番札所  
〒872-1103 大分県豊後高田市黒土1475 TEL/FAX 0978-53-4895

## 年中行事

月	日	行事名	行事内容
1	1~3	初護摩・初祈祷	新年祝いの護摩・祈祷
	8	初薬師修正会	無動寺縁日(鬼会もあったが今はお経だけ)
	13~2/2	峰入り寒行	無動寺の自行(節分会のためのお清め)
2	3	節分会(星祭り)	星の札を配るので星祭りとも言う
	15	涅槃会	お釈迦様の命日
3	17~23	春彼岸	一般的な歳時記
6	4	宗祖大師入滅日	天台宗の開祖最澄大師の命日
8	18	孟蘭盆会、宗祖大師降誕日	施餓鬼会とも言う、また最澄大師誕生日
9	20~26	秋彼岸	一般的な歳時記
11	24	天台大師入滅日	中国の天台宗祖の命日
12	31	除夜	一般的な歳時記、一年の穢れを清める
毎月28日は縁日護摩供養			午前11時より



豊後高田方面から、国道213号線を真玉の浜(スーパーまたま先交差点)で県道赤根・真玉線へ右折。7kmほど行くと左手に鐘楼が見えてきます。駐車場は、正面右手にあります。  
※表紙左上の絵は、岐阜県上宮寺の小笠原宜氏謹筆による本堂天井絵の一部